



さわやか おけがわ館 開所

八月一日、埼玉県桶川市にさわやか倶楽部の介護付有料老人ホーム『さわやかおけがわ館』がオープンしました。さわやか倶楽部では埼玉県内八か所目の施設となります。

桶川市は、埼玉県のほぼ中央部に位置しており、江戸時代には中山道の宿場町として栄えていました。皇女和宮が第十四代将軍徳川家茂に嫁ぐ際、その大行列は京都から江戸へ向かう中山道の道中にあつた桶川宿へ宿泊しました。この歴史になぞらえて「桶川市民まつり」で当時、桶川宿に宿泊した様子を再現した「皇女和宮行列」のパレードが毎年盛大に行われています。

建物は木造二階建て、外観も内観もモダンレンガ模様で落ち着いた雰囲気を出しています。居住フロアでは中央にゆったりとした食堂を配置し、大浴場はまるで温泉に来ているような広さで、ゆったりとくつろいでいただけます。周辺にはお食事所やショッピングセンター、スーパー等が多く、日々のお散歩も楽しく行える環境です。

施設長あいさつ

さわやか倶楽部に入社して七年目を迎え、この「おけがわ館」で管理者として三施設目となります。私は桶川市に住んで二十



年になりますが「いっかお世話になった地元で皆様に恩返しをしたい」との思いをずっと持っており、この桶川の地に自社の施設ができることを心待ちにしておりました。「おけがわ館」に入居された皆様が心に張り合いを持ち、毎日楽しく笑顔でお過ごしいただける施設、また、ご家族様や地域の方々をはじめ、皆様に愛される施設を全職員で力を合わせて作ってまいります。

(弓削田(ゆげた) 恵子)



さわやか おけがわ館

〒363-0001 埼玉県桶川市大字加納71-1

TEL.048-662-9675

介護付有料老人ホーム 62床

交通
アクセス

JR高崎線・桶川駅から車で約8分、
圏央道・桶川加納ICより車で約6分



インドネシアからようこそ!

インターンシップ生の 歓迎セレモニーを開催

八月三日、さわやか倶楽部では三期生となるインドネシアからのインターンシップ生二〇名の歓迎セレモニーが行われました。本インターンは大学のカリキュラムの一環として行われており、さわやか倶楽部の介護施設で介護の知識や技術を学ぶことにより、所属大学から単位が付与されます。

セレモニーでは、さわやか倶楽部の山本武博社長が流暢なインドネシア語で歓迎の挨拶を行い、幹部社員からも激励の言葉が贈られました。インドネシアからはインターンシップ生が所属するアルタカバンジャラ看護大学のヘリアント・バングン学長がリモートで参加し、ウチヤマグループに対する感謝の言葉が伝えられるなど、非常にグローバルなセレモニーとなりました。

インターンシップ生二〇名を代表して、さわやか鳴水館で働くアグスマン・ジャヤ・ゼブアさんが決意表明を日本語で行いました。また、インターンシップ一期生の三名もリモートで参加し、先輩として激励のメッセージを贈るとともに、再びさわやか倶楽部の施設で働くために日本語を勉強しているという嬉しい報告もありました。山本社長からは、一期生を代表してペンティロハエティさんに内定通知書が読み上げられました。

セレモニー終了後には全員で記念撮影を行いました。また歓迎のプレゼントとして、さわやか宗像館の入居者様が制作された日本人形がインターンシップ生に一体ずつ贈られました。

さわやか倶楽部では、今後も介護の技術や知識をインドネシアの看護大学と共有し、介護分野における専門家を育成するなど、国際貢献を目的とした産学連携を続けていきます。(海外業務課・金森彩)



センター長
のぞみ
浦部 希美さんさわやか愛の家なかい館
[福岡県北九州市]

キラリ一等星

光り輝くスタッフのご紹介



大学では介護や障がいなど社会福祉について学び、4年生の時に就職活動でさわやか倶楽部の説明会に参加しました。最初は高齢者と関わる職種で探していましたが、説明会の中でさわやか倶楽部に放課後等デイサービスがあることを知りました。大学で放課後等デイサービスについても学んでおり、説明会ではその魅力をたくさん聞いたことから、さわやか愛の家で働きたいと強く感じ、面接を受けました。

子どもたちと日々過ごす中で、たくさんの経験をさせていただいています。今年の3月からセンター長という立場になり、慣れない管理業務につまづくこともあります。市丸統括や他の愛の家のセンター長に確認すると解決策を一緒に考えてくださるので、自分自身の知識も増えていくのを感じています。

毎日活動をする中で、次は何をしようか迷ったり、どのような活動なら子どもたちが「やりたい!」と思ってくれるのかなど悩んだりします。活動を考える方法は様々ですが、その活動後に

「楽しかった」「おいしかった」「またやってほしい」と子どもたちから直接感想をもらった時に、やってよかったなと強く感じ、とても嬉しくなりました。

高校までソフトボールをしており、今は社会人のソフトボールクラブに所属して、月に1回程度は試合をしたり大会に出場したりしています。仕事で悩むこともありますが、そんな時はバッティングセンターで汗を流して悩みを吹き飛ばします!

新卒で入社し2年目になりました。利用する子どもたちの成長が間近で見られた時は、思わず涙が出そうになります。子どもたちの人生に関わる仕事なので重責ではありますが、職員とともに支援者として成長していきます。未熟な部分ばかりですが、さわやか倶楽部でしかできないことに一生懸命取り組み、経験値を上げていきます。そして周りのみなさんと一緒に学び成長できるように、より一層努力していきます。

第14回 口腔保健衛生指導者 合格者 発表

施設名	職員名	施設名	職員名	施設名	職員名
さわやか室蘭式番館	工藤 葵	さわやかあびこ館	今隈 拓也	さわやか鳴水館	岩崎 利枝香
	青野 芳江		吉原 隆史		小池 洋子
さわやか桜式番館	加藤 卓雄	さわやかながれやま館	山本 稔郎	さわやか レークサイド中の原	チタ デウイ ハンダヤニ
	盛 歩	さわやか成田館	工藤 梨沙		グスティアユ プトゥ エフィスニャンタリ
さわやかなすしおばら館	星 知香	さわやか柏館	吉岡 マサ子	さわやか田川館	村上 博美
	田代 洋子	さわやかさがみはら館	井ノ上 陽子		高野 淳子
	三上 まき		松田 アサ子		溝口 美代子
さわやかすずめのみや	ダイヤー ファティム	さわやか笠寺館	湯澤 聖人	さわやか宗像館	辻 留奈
	増子 美穂	さわやかシーサイド鳥羽	木田 由樹	さわやかヘルバーステーションめぐり	中森 麻衣
	平野 景子		村田 絵美		梁瀬 久代
さわやかいわつき館	アンガ スティア ワヒュティ	さわやか和歌山館	桑野 譲		さわやかいずみ館
	フィルマン ラマンダ ソフィヤン	さわやか枚方館	吉田 真由美	熊丸 景子	
	浦野 ジョージ	さわやかリバーサイド西脇	エカ フェリアント	アフィアット アフィアンティ	
	山本 緑		藤原 あかね	アストリア エレン クスマ	
さわやかそう花の里	加藤 早苗	さわやか大島寺番館	中島 耕太郎	さわやか 訪問看護ステーション北九州	林 るみ
	齊藤 楓香		藤堂 一枝		松本 結麻
	宮田 雄司		大岩 愛		西田 爽
さわやかあびこ館	辻 美咲	さわやか清田館	久留島 ゆかり		
		さわやか海響館	前田 博司		

会長賞

2022年
8月度
表彰

今月は、九十六歳でご逝去されたさわやかいずみ館（福岡県朝倉市）の入居者様の娘様より感謝のお手紙をいただきました。

さわやかいずみ館 施設長様 職員の皆様

母が大変お世話になりました。約3年7ヶ月の入居でしたが、とても充実した楽しい日々を過ごさせていただきました。家庭的な雰囲気、職員の方々も優しく行き届いたお世話に、私たち家族は安心していました。

四季折々の行事や家庭では体験できないことや味わえないお食事、お誕生日会やプレゼント等々、母も初めそのことをたくさんさせていただき、楽しい思い出をありがとうございました。たくさんの写真は笑顔でした。ブログを観るのも楽しみでした。

その間、何度も体調が悪くなり、皆さんには心配ばかりおかけしました。わがままも言ったのではないのでしょうか。私はまだ実感がわかず、母は今でもいずみ館で生活している様です。

今、大変な状況の中お仕事をなさっている職員の皆様、どうぞくれぐれも体調に気を付けてください。一人一人の職員様にお礼を申し上げたいのですが、どうぞよろしくお伝えください。

そして、何より仲良くしていただいたご入居者の皆様、どうかいつまでもお元気で楽しくお過ごしされます様に願っております。

さわやか倶楽部からのご香典ありがとうございます。お忙しい中、母のアルバム、CDを作ってお通夜にお持ちいただきありがとうございます。いつまでも大切にいたします。

《施設からのコメント》

花田様が入居されてから三年七ヶ月、家族のように接し、かけがえない時間を共に歩んできました。移ろう季節の中、人生の記念すべきイベントも、何気ない日常も、想い出で溢れています。そこには、いつも優しく微笑む花田様の笑顔がありました。たおやかで、一日一日を丁寧に過ごされるお姿に、人として大切なことを学ばせていただきました。

早くに両親を亡くし、大変な苦労もされてきた花田様。激動の時代を生き、命を守り育て、築き上げてきたご家族は、花田様の心の支えであり、ひ孫様の成長と一緒に喜び合つたものです。コロナ禍で世の中が変化しようとも、変わらず、深い愛情を持って寄り添うご家族様との絆に、こちらまで心が温かくなりました。

今回、このようなお手紙をいただき、ご家族様のお心遣いに感謝いたします。いただいたお言葉を励みに、今後も皆様が「ここにいてよかった」と感じていただけるような施設を目指してまいります。（生活相談員・和佐野 蓉子）

※お手紙はご家族様の許可を得て掲載しています。



産んでくれて 育ててくれて ありがとう！



私は、1958年8月26日台風の中、栃木県の塩原温泉にて3兄弟の長女として、すこぶる元気な子として誕生しました。

母はホテルや旅館に鯉を卸す商売をしており、町中をオートバイで配達していました。365日休むことなく「タイちゃんの姿を見かけない日はないね」と誰もが認める働き者で、私も働いている母の姿しか記憶にありません。私の出産当日は、台風で鯉のいけすが流されてとても大変な中、母はお産婆さんと2人で頑張ったそうです。

父は大工をしていて、カメラが大好きでした。父の他界の時には、大量の写真とともに思い出が蘇ってきて、たくさんの愛情を受けていたことをあらためて実感しました。そうした両親のもとで、何不自由なく好きなことができる環境であったことに感謝しています。

結婚、出産を経た後は、母の助けも得て私の好きな幼児教育に携わってきました。

私が40歳、母60歳の時に母が突然脳梗塞で倒れ、失語症、右



介護リーダー

郡司 敏江さん

さわやかグループホーム
なすしおばら
[栃木県那須塩原市]

半身麻痺となり、7年後には車椅子生活になりましたが、それでも自宅がいいという母の意向で、父と2人での生活を送ることになりました。孫たちの訪問を楽しみにしながら、辛かった気持ちを抑えていつも笑顔でいてくれた母も、77歳で生涯を閉じました。

その母が私を介護の世界へと導ききっかけとなりました。母が生涯を通して私に教えてくれたことは「いつも人の事を思いやる心と忍耐強さは、母から受け継いだ私の宝物」だということです。今の私があるのは、両親が人一倍健康な体を授けてくれ、優しく見守り育ててくれて、大変だった人生の中にもたくさんの良い思い出があったおかげです。両親から受けた命を、3人の子供と7人の孫へリレーできたことに感謝いたします。

64年間を振り返り、最近特に母の面影を思い浮かべる機会が増えました。入居者様への献身を通じて、どこか私の中で今、親孝行ができているのかな？と感じ、楽しく仕事をさせていただいています。

本当に、産んでくれて、育ててくれて、ありがとう。

さわやかダイアリー

日々更新される施設のブログから一部をご紹介します！



その他の
記事は
こちらから



8/2

10周年!マグロの解体ショー!!

さわやかシーサイド鳥羽^{とぼ} || 三重県鳥羽市

こんにちはさわやかシーサイド鳥羽です。お待たせいたしました。マグロの解体ショーをご紹介します。

立派なマグロでございます。10周年ですのでくす玉でお祝いました。厨房職員さん増員いたしまして、3名で解体して頂きました。1さく取れると「おおお〜」と歓声が上がりました。無事に解体が終わりました。

今回はご入居様様の記念撮影です。マグロの解体ショーの後の記念撮影コーナーです。お昼が楽しみですね。メンズチームでパシャリ。素敵な笑顔頂きました。たくさんの方と記念撮影が出来ました。ありがとうございます。(二部 剛志)



7/29

物作りレク、手作りステンドグラス

さわやかさくらのもり || 秋田県秋田市

こんにちは、今回の物作りレクでは何が出来るのでしょうか?早速取り掛かりますよ。「これにこうしてね」キラキラのフィルムを黒い枠の中に貼り付けます。全部貼ったらフチに沿ってハサミでチョキチョキ。そしてこちらが完成品です。窓からの光で透かして見るとまるでステンドグラスみたいで、とっても綺麗にできました。

まずは2階の窓に、みんなで手作りした物を貼り付けました。完成した作品の前で記念撮影です。美術館や水族館のようで綺麗ですね。大満足です。皆で日の当たり具合で変化するステンドグラス?にうっとりです。芸術的な館内になりましたね。(三浦 由美子・黒川 和人)



8/2

夏祭り



さわやか愛の家しものせき館 || 山口県下関市

こんにちは。さわやか愛の家しものせき館です。今回は利用してくれたお友達
の保護者の方もお願いして夏祭りをしました。まずは、屋台。先日のブログでもご
紹介した千本くじとヨーヨー釣り。そして最後の一つは、「的当て」をしました。遊
ぶ前にはお客さんと店員さん、どちらを先にするかを決めるよ。こちらのグル
ープはじゃんけんをしようと提案して役割を決めました。さあ遊ぶぞ〜。取れるかな
〜。「ピンクのヨーヨーが欲しいな」千本くじに挑戦。どれが当たるか運試しだね。

屋台の次はビンゴ大会です。どんな景品があるのかな?景品目指して頑張るぞ
〜。景品の中にはこんなものも。オリーブオイル。メロンもあるよ。甘そうだね。特
賞はお米でした。おやつには夏祭りらしい食べ物を食べたよ。フワフワ綿菓子に、
動物カステラ。帰りには「お米持つよ」と優しいお友達もいました。かっこいいね。
夏を満喫した夏祭りゲーム編でした。(金子 世玲華)



7/27

うなぎを食べました♪

さわか^{かしわ}か柏館 || 千葉県柏市

土用丑の日にうなぎを召し上がっていただきました。美味しそうなのでアップで撮りました。皆さんの様子をお届けします。カメラを向けたらポーズをとって下さいました。

うなぎを見ただけでも、この笑顔、どうぞ召し上がってください。美味しい笑顔、ありがとうございます。見ていて嬉しくなりますね。うなぎで皆さんのテンションがUPしていましたね。美味しい笑顔、お届けしました。次回もお届けします。おたのしみに!(山岸 良子)



8/4

土用の丑の日は鰻

さわか^{かしわ}かさかのいち館 || 大分県大分市

8月4日は土用の丑の日でした。今年は7月23日と8月4日の二回ありました。二回目のことを二の丑というそうです。



さかのいち館でも美味しい鰻を昼食に頂きました。皆さまとても喜ばれていました。暑い夏を元気に乗り越えていけそうです。(岡野 登美世)



8/16

わたがし作り

さわか^{かしわ}かさくら山荘 || 福岡県北九州市

おやつレクとして、皆様とわたがし作りにチャレンジしました。イチゴ・ラムネ・レモン・オレンジ・ブドウ・メロン・コーラ味等、たくさんの種類のザラメが用意されていました。わたがしをお家で簡単に作れるという機械にザラメを入れて、あとはひたすら割り箸をクルクル回します。皆様すぐにコツを掴んで上手に作っておられました。



こちらは、ブドウ味ですね。綺麗なブドウ色に仕上がっています。とてもとても甘くて、自分で作ったわたがしは、より一層美味しく感じました。(立野 楓)



8/9

見事に割れたよ♪すいか割り

さわか^{かしわ}かながれやま館 || 千葉県流山市

夏の楽しい思い出の1ページがまた増えました。すいか割りです。きょうは2Fフロアの皆さまと思い出づくり。目隠しがあまりにも馴染みすぎて、誰かわかりますか?スタート前にガンバルゾーの記念写真。さあ皆さま積極的に参戦してください。見事命中。やったー見事に割れました。



それでは皆さまで割ったすいかを美味しく食べましょう。冷たくて甘くて美味しかったすいか。皆さまとの楽しい思い出ありがとう。(藤島 真州美)



Surprise!

さわやか宗像館

2名の生きがい作りに拍手！
山本社長より、ご入居者様へ
感謝状贈呈!!



「夫は苦勞人で、好きな絵をコツコツ描いていた」と千代子様はほろり



「さわやか倶楽部」の介護の大きな目標は、生きがい作り。その素晴らしい実例を示された「さわやか宗像館」2名のご入居者様に、山本社長より感謝状とプレゼントを贈呈させていただきました。



マンガ「さわやか君」第1回



入院直前に職員が康武様からお預かりしていた絵

人生最後のチャレンジで連載マンガに注力されていたが、七月中旬に残念ながら急逝されてしまいました。生前から「ぜひ柏木様に絵の道具をプレゼントしたい」と言っていた山本社長が「さわやか宗像館」に現在ご入居中の奥様千代子様に、感謝状と記念の「多色マーカー」をプレゼントしました。

感謝 柏木康武様・千代子様へ

柏木康武様にはこの「ウチャマタイムズ」二〇二二年六月号より三回にわたって連載マンガを寄稿していただきました。その題名は「さわやか君」。



「このような生きがいづくりの実践例を全国の施設に広げていきたい」と山本社長



大好きな甲斐選手の名前刺繍入り。サプライズプレゼントに古川様はビックリ!

感謝 古川典子様へ

古川典子様は、以前人形作りの先生をされており、その作品が実家に多く残されていました。「さわやか宗像館」のインドネシア特定技能職員に人形二体をプレゼントしてくださいましたが、まだまだあるお人形を今度はインターンシップ生にもプレゼントしていただけることに。福岡県内の三施設に来たインターンシップ生二〇名は、初めて手にする日本人形に大喜びしました。

山本社長より「ご入居者様の作品で国際交流ができたことが大変ありがたい」と感謝の意を伝え、古川様がこっそりファンを続けているソフトバンクホークスのユニフォームをプレゼントしました。

お二人のご入居者様が長い年月続けてこられた趣味、生きがいの作品が、ご縁の風に乗って大勢の方と繋がったことに、参加者全員が感動した会になりました。(原田 裕子)



さわやか清田館から、インターンシップ生もお礼にかけつけた



インターンシップ生歓迎セレモニー(二面参照)で全員に古川様作の人形が贈られた



世界平和への思い

七十七回目の終戦の日

毎年、八月のこの暑い時期になると、遠い日の戦争の記憶が蘇ります。日本では今年で七十七回目の終戦の日を迎えました。今でこそ長く続く平和の中で当たり前に生活をしている私たちですが、私が生まれ、昭和十六年当時は、世界は第二次世界大戦の真っただ中であり、その年の十二月から日本も太平洋戦争に突入しました。そして、私が四歳になった昭和二十年の八月、広島と長崎に原子爆弾が落とされ、八月十五日に昭和天皇がポツダム宣言による無条件降伏を受け入れることを玉音放送で国民に伝え、日本の敗戦が決定しました。

幼少期に経験した戦争についての記憶はあまり多くはありませんが、空襲のたびにサイレンが鳴り、防空壕に逃げ込んだことは覚えていますが。当時はみんな生きるのに必死で、食べるものや着るものも十分になく、助け合いながら生活していました。終戦後もその状況は続きましたが、爆弾が落ちてくる心配がないことだけでもありがたく、平和の尊さを身に染みて感じました。

現在も世界のどこかでは紛争が絶えず、命の危険に脅かされて生活している人々が多くいます。ウクライナでは今年二月からのロシアの侵攻により、平和に暮らしていた人々が突然戦争に巻き込まれ、家族を守るために戦闘に加わる市民や国外へ避難する女性・子供も多くいます。先日はウチヤマグループが支援するNPO法人「アラルネツサンス」の創設者、鬼丸昌也さんが本社を訪れ、最近支援を始めたというハンガリーでのウクライナ避難民の状況についてお話を聞くことができました。アフリカやアジアにおける既存の活動に加え、緊急で支援が必要な方に向けて迅速に動く彼らの熱い想いと行動力には、本当に頭が下がります。そして改めて、多くの命を必然的に犠牲にしてしまう戦争は、どんな理由があれ絶対に許してはいけなく、強く感じました。

恒久平和のために、私たちができること

日本では、戦争を直接体験した世代の方々の高齢化が進んでいますが。戦争の記憶も風化が進み、最近では人の命の重みが軽視されているような残念な事件も多くなっているように感じます。戦後の焦土と化した日本を、寝食を忘れて立て直してくれたのは、現在の八十歳を超える高齢者の方々です。戦争を知る高齢者の方々は、命があること、生きていくことのありがたさを深く感じているので、物や大事にし、命を大切に日々生活されています。私たちが手がける介護事業では、そうした高齢者の方々に多くお世話させていただいています。日々の介護を通じて、高齢者の方々の命に向き合う姿勢を感じながら、今の日本の平和な生活を築いてくださったことに感謝の気持ちを伝えていきたいと思います。

ウチヤマグループを創業して五十一年が経過しましたが、私たちが今まで仕事に打ち込んでこられたのも、日本という国が平和で安心して生活できる環境があったおかげです。これからもこの平和を維持していくために、私たち一人ひとりができることは何か、仕事や私生活の上で日々意識しながら行動していくことが大切だと思います。

この場を借りて、その時々感じた私の想いを伝え続けてきましたが、このウチヤマタイムズの紙面を通じてメッセージを送るのは今回が最後となります。これまで多くの方々にご愛読いただき、一部のお読者の方からは時々感想やアドバイスもいただきました。心より感謝申し上げます。印刷版の発行は終了しますが、インターネットでは過去の記事も含めて読むことができます。これからも当社の想いをさまざまな形で発信してまいりますので、引き続きよろしくお願いたします。



オススメ

- 1 安倍晋三 時代に挑む! (安倍 晋三)
- 2 インテグリティ コンプライアンスを超える組織論 (中山 達樹)
- 3 源氏物語 (紫式部)
- 4 ウェルカム・ホーム! (丸山 正樹)
- 5 じごくへいった三人 (谷 真介 文/赤坂 三好 絵)

名作、傑作が 満載の作品集が 完成しました!



秋田市の介護付有料老人ホーム「さわやかさくらのもり」では、オープンから毎月「さわやかマガジン・さくらのもりトレンディー」というカラー12ページの手作り冊子を発行しています。内容は、施設長とスタッフの挨拶の他、その月のイベントやレクを写真で紹介するので、プライバシーの観点からお名前や詳細な文面の掲載を控えています。配布はご家族様と館内の方に限り、ブログ掲載禁止の方を含むすべてのご家族様が入居者の様子や笑顔を見ることができると、好評を得ています。しかしその反面、見る側としては写真からその方々の思いを想像することになり、なぜ笑顔なのか、どんな思いをしているのかが伝わりにくいのではと思いはじめました。

そこで、写真はなくても文字で入居者の思いや考えを伝え、逆に「風景」を想像させる物があっても面白いと考えました。うってつけだったのが、毎月行っている川柳レクです。もともと人気のあるレクで、ユーモアあふれる内容や、その時々感じたことを日々書き留めた川柳の発表は皆様楽しみにされております。川柳レクの最中は、ひと月溜めたメモを見ながら「あの時は面白かった」「昔はこうだった」



「今月はこれが美味しかった」など、川柳を考えて生み出す悩みの顔と、楽しかったことを思い出す嬉しい顔が混ざり合った、なんとも不思議な時間が流れます。他の入居者様やレクの担当者に相談したり、フル回転で頭の体操をしている

のも伝わってきます。作り終わった後に作品を見せ合い、皆様が談笑しながら笑顔で過ごしている時間は、とても素敵に感じられます。

それらの作品を集めて冊子にしたのが令和2年度の作品集「さくら唄」の第一弾でした。毎月の請求書に同封するマガジンと一緒に、ご家族様へ送らせていただくと、とても反響がありました。そして館内

に配られた「さくら唄」をご覧になった入居者様達は、自分の作品が手元に残ることを大変喜ばれていました。

そして今回、令和3年度の作品集「さくら唄・其の弐」の発刊を経てさらに川柳熱が深まったと感じています。今回は管理者とレク担当者のあいさつ文、そしてレクの風景の写真も掲載させていただきました。前は8ページだったのが、今回は16ページと2倍のボリュームになり、とても読みごたえがあります。自分たちの作品が多く載っているので、入居者様も楽しそうにご覧になっています。

皆様の作品が手元や記憶に残ること、そして、その作品に込められた思いや背景が皆様に伝わることをこれからも大切にして、マガジン同様に制作を続けていきたいと思っております。

ここで一句。「さくら唄 流行り病の渦の中 読み合う唄に 希望あり」(さわやかさくらのもり/副主任・黒川 和人)



入居者様の数々の作品をもとに、本社の社員による審査を行い、人気の高かった作品を表彰することになりました。



最優秀賞

昨日まで 引いた孫の手 今かりる / 寺門 儀一 様

優秀賞

さくらより あなたが奇麗と 世辞を言う / 佐藤 カネ 様
 さくらもり 年配、先輩 みな元気 / 日沼 キセ 様
 老いし身も 心はなやぐ ひなまつり / 坂垣 佳代子 様
 コロナ鬱 やけぐいスイーツ 胃の薬 / 伊藤 秀太郎 様
 白髪は 人生勝利の 一里塚 / S 様



コロッケ倶楽部 **新メニュー登場!!**

ポナーが運営するカラオケチェーン「コロッケ倶楽部」では、この夏、ブランドメニューがリニューアルしました。フードメニューには、話題の「大豆ミート」を取り入れたかつ丼やカツカレーが新たに加わりました。人気のラーメンは小鍋でそのまま提供する「CAMPめし」スタイルにリニューアルされ、昭和レトロ感満載のソフトめん・ミートソース+コッペパンの給食セットも登場。カラオケと一緒に新メニューもぜひ楽しんでください!

編集後記 「うちでもこんな新聞が作れんか」

21年前、中途採用でシステム開発室に入社したばかりの私が、内山社長(当時)から最初に依頼された仕事がこの社内報の制作でした。見本に渡されたのは、あるラーメンのチェーン店が定期的に発行していた1枚のニュースレター。B4サイズの両面カラーで印刷されたその紙を何度も見返しながら、初めての社内報制作に取り組みました。本当に一からの手作りだったので、自ら記事の構成を考えて取材を行い、挿し絵やフォント選びなどの慣れない作業にもかなりの時間を費やしました。そうしてようやく完成した原稿を内山社長に渡すと「ようできた。これから毎月頼むよ」と言われ、2001年5月にウチヤマタイムズの発行がスタートしました。

創刊当初はさわやか倶楽部もウチヤマホールディングスもまだなく、ポナーの店舗紹介や不動産情報などが記事の中心でした。特に当時はカラオケ店と居酒屋の出店が毎月のように続き、社内報での情報発信を通じて会社の成長の勢いが身近に感じられました。その後、内山社長からのアドバイスもあり、外部の関係者のインタビュー記事を入れるようになりました。ココ・コーラの久保会長や現・プロントの竹村典彦社長、作家の福澤徹三先生など、普段の仕事では接することがない様々な業界トップの方のお話を直接聞いたことは、たいへん刺激になりました。また、船井総研の三浦康志先生からは、改善

のアドバイスやヒントを度々いただきました。

会社の成長につれて発信する情報量が多くなり、読者数も増えたことで制作・発行の作業負担が大きくなったので、2006年10月号からはデザインの部分をデザイナーの今村将也さんに、印刷をクルーズさんに外注することになりました。内容も介護事業の成長に合わせて徐々に介護に関する話題が増えていきました。

記事の作成にあたっては、ウチヤマグループの職員の皆さんや施設・店舗のお客様にもいろいろとお話を聞いたり、資料を提供していただいたりして、たいへんお世話になりました。これまで多くの方の支えがあり、読者の皆様にも温かく見守っていただいたおかげで、21年と数か月、(何度か多忙のために穴を開けたことがありましたが)ほぼ毎月発行を継続することができました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。時代の流れに合わせて情報発信の手段も変わりますが、これからはWEBを通じてタイムリーに社内の情報を皆様に届けてまいりますので、引き続きよろしくお願いたします。本当にありがとうございました。(ウチヤマタイムズ編集長・嶋井 太郎)

※ウチヤマタイムズは、今号をもって印刷版の発行を終了します。今後はウチヤマホールディングスの公式サイト上から電子版にて情報発信を行います。(http://www.uchiyama-gr.jp/uchiyamatimes/)

